

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2015.1 vol. 105

新年明けまして
おめでとうございます。



昨年の医療界を振り返ってみます。1月のSTAP（刺激惹起性獲得）細胞作成成功の理化学研究所の発表に日本だけでなく世界全体が沸きました。再生医療については素人ですが、細胞治療に興味を持つものの一人として、これが本当ならと思いました。しかしその後の展開は予想もしていないもので、このことで多くの人々が傷つくことになり、その影響は当分の間続くのではと思います。一方で、先端医療センター眼科で、滲出型加齢黄斑変成の患者さんに対する自家iPS細胞由来網膜色素上皮（RPE）シート移植に関する臨床研究がスタートしました。今後の経過を見守る必要がありますが、良い結果が得られることを期待しています。

現実には目を転ずると、4月には診療報酬改定と同時に、消費税は8%にあがりました。この診療報酬改定の目的として

1) 2025年度に向けて、医療提供体制の再構築・地域包括ケアシステムの構築を図る。

2) 入院医療・外来医療を含めた医療機関の機能分化・強化と連携、在宅医療の充実等に取り組むなどが挙げられています。昨年9月に当院が主催しました日本医療マネジメント学会九州山口大会でも「病院機能分化と地域医療連携」というテーマで議論いただきました。ただ、当院を含め、診療報酬改定の方向に沿った機能充実、連携促進を求められている急性期病院は、消費税upも重なり大変な思いをされているところが多い様です。

昨年のこの欄にも書きましたが、急速な高齢化を迎えご紹介いただく患者さんも主病以外に多くの合併症を持って来られます。また認知症を有する患者さんが入院される機会も増えてきました。入院期間は今後さらに短縮することを求められ、この短い入院期間に十分な医療を実施、紹介元の医療機関にお帰りいただくためには、現在の診療科のさらなる充実とともに、新規診療科の開設も考えなければなりません。この数年間で口腔ケアを専門とする歯科口腔外科、がん薬物療法を専門とする腫瘍内科、救急科、皮膚腫瘍を専門とする皮膚腫瘍科など新しい診療科も立ち上がりました。

今、最大の問題は築33年を越え老朽化、狭隘化が目立つようになった東病棟（当院の主病棟）や外来・医局を含めた管理棟にあります。院長就任後、将来の建替えと同時に、今後鹿児島医療センターは地域医療の中で救急医療を含めどのような医療を推進していくべきかを主テーマとして取組んで参りました。昨今の医療状況が厳しい中で建替え問題を解決するには、経営改善が必要との指導があり、病院全体として努力中です。

本年も緩和ケア研修会、循環器市民講座、脳卒中市民講座、地域医療連携懇談会を予定しています。これに昨年からがん市民公開講座が加わりました。また、看護部門のみでなく他の部門でも、今まで以上に地域に開かれた研修会を多く企画しています。今後ともこのような機会を増やし、地域連携を進めていきたいと思っています。

今年も課題は多い年となりますがどうぞよろしくお願ひします。

（文責：院長 花田 修一）

幹部年賀状



副院長

今村 純一

明けましてお目出度うございます。

昨年は日本にとって嬉しいことにノーベル物理学賞を取られた日本の3人の科学者がおられました。鹿児島出身の赤崎勇先生の受賞は県民には勇気づけられました。中でも赤崎先生の母校、甲南高校出身者には鼻高々の出来事だったことでしょう（残念ながら私は甲南高校出身者ではありません）。素晴らしい子供たちもいました。ノーベル平和賞のマララ・ユスフザイちゃん（16歳）、膵臓癌の腫瘍マーカー測定法を開発したジャック・アンドレイカ君（15歳）、彼らはインターネットの申し子かもしれません。

昨年は病院にとって厳しい時期となりました。一昨年の赤字経営がたたり、将来構想の見直し、そして在院日数の短縮の課題を含めた経営改善計画の立案実行と追い詰められるような日々が続きました。幸い経営状態は平年並に戻り年末を終えましたが気を緩めることのできない日々が続きます。昨年度は腫瘍内科および皮膚科皮膚腫瘍科も増設され、患者さんも多く、在院患者数は確保されていますが、一方で急性重症患者の後方病床の確保が難しくなりました。そのために重症の急性重症患者の受け入れに余裕がなくなり、ご紹介いただく先生や救急隊の方にご迷惑をお掛けしました。経営上の理由からだけでなく、当院の優秀な医療スタッフ、設備・機器の効率的な運用のため、より多くの患者さんにより良い医療の機会を提供するためにも在院日数の短縮は喫緊の課題となっています。皆様のご指導・ご協力を今後とも宜しくお願い申し上げます。



臨床研究部長

城ヶ崎 倫久

新年明けましておめでとうございます。昨年末は総選挙があり、慌ただしく年の瀬を迎えられた方が多かったのではないのでしょうか。

さて、臨床研究部では2年連続で昨年も学位取得者が誕生しました。臨床研究部で研究を続け、現在は当院の第二循環器内科の医長として臨床に励んでおられる下川原裕人先生が「Relationship between vascular endothelial growth factor and left ventricular dimension in patients with acute myocardial infarction」という題名で医学博士を取得し、同論文は Journal of Cardiology の11月7日号に掲載されました。これで臨床研究部から3人目の医学博士誕生です。昨年4月からは当院の臨床検査技師である梅橋功征君と山本将義君が鹿児島大学大学院医歯学総合研究科の連携大学院である生理活性物質制御学講座に入学してくれました。2人は仕事をしながら臨床研究部に邁進しています。学位取得をサポートしながら治験の推進、EBM臨床研究の推進に尽力したいと思います。今年もよろしくお願い致します。



メディカルサポート
センター長 兼
地域医療連携室室長

藺田 正浩

新年明けましておめでとうございます。
昨年度は患者様のご紹介、受入れ等ご協力いただき、また、第3回地域医療連携懇談会で貴重なご意見やご支援をいただき、ありがとうございました。

メディカルサポートセンターはこれまで通り、地域医療連携室（医療福祉相談、転院・退院相談）、入院支援（入院時早期ケア・相談）、がん相談支援センターの三本柱で運営し、今年度も連携室便り『鹿児島医セン』にて、院外向け研修会の開催、病院紹介などの記事を毎月紹介していきたいと思っております。

当院は、今後も地域医療連携を重点に、今まで以上に前方および後方病院の連携強化に努めていきたいと思っております。また、救急受入れ強化のために、ファーストコールの改善に努めてまいりますので、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

今年度も、“顔の見える連携室”を目指してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



事務部長

太田 春彦

新年明けましておめでとうございます。

日頃より当院の運営につきまして種々ご協力いただき厚くお礼申し上げます。また、患者様を多数ご紹介、またはお引き受け頂き感謝申し上げます。

さて、大きな見直しとなった昨年の診療報酬改定は消費増税と相まって病院運営にとって大変厳しいものになりました。これからも2025年問題に向かって医療機関を取り巻く環境は益々厳しくなると予想され少しも予断を許さない状況が続きそうです。

今後は病床機能報告をもとに地域医療ビジョンが作成される訳ですが、それによりますます医療機能の分化、集約化が進むことになり、各医療機関の連携もより強固なものが求められるようになると思っております。

医療連携は診療・看護部門が中心ではありますが、事務部門においてもその取組は重要だと考えています。昨年の医療連携懇談会の折には連携病院の事務長さん方と有意義な意見交換が出来、益々その思いを強くした次第であります。

2015年は事務部門の立場からも地域医療連携の推進・地域医療の向上・情報の発信等、皆様方の役に立つ病院、信頼される病院を目指して努力しく所存でございます。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

幹部年賀状



看護部長
上別府 昌子

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
昨年は、「医療機関の機能分化・強化と連携、在宅医療の充実等」を重点課題とした診療報酬改定で、当院も地域で果たすべき役割を再認識させられた年でした。

メディカルサポートセンターが中心となり、全診療科で退院支援カンファレンスが充実し、退院調整を進めてまいりました。前方・後方施設としてご支援いただきました地域の医療施設の皆様に感謝致します。

看護教育は、毎年実施している「循環器・脳卒中・がん」の専門性を活かしたエキスパートナース研修や「新人看護師研修」は定着してきました。今年も多く施設から参加をお待ちしております。

今年の干支「未」は字義が「味」で、草木の果実がいよいよ熟し、丁度滋養溢れた状態になることを指すと言われております。現実には厳しいことも少なくありません。当院が、地域に期待される、そして、その役割をしっかり担うように努力していきたいと思っております。皆様にとって実り多い年になりますよう心から願っております。

消化器がんカンファレンス / キャンサーボードのご案内

当院では、毎週火曜日午後5時15分から消化器（消化管および肝胆膵）がん手術適応症例を中心に、消化器内科、消化器外科、放射線科、臨床病理、腫瘍内科、臨床研修医、NST、がん関連認定看護師などと合同で症例検討会を行っております。オープンですので、診断、治療、対応にお悩みの症例がありましたら提示していただき、連携を構築しながら共同で検討できればと思います。パラメディカルスタッフ含め、遠慮なくご参加お願いいたします。

開催日：毎週火曜日 午後5時15分～

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

代TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域医療連携室】 蘭田・四丸・井手・濱口・森・鷺頭・吉留・山口・酒井・櫻木・竹田津

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

